

産学官の新しいつながりを生み出し、 三重大学発ベンチャーを育成。

創造開発研究センター社会連携創造部門は、三重大学の「社会との接点」として、新設した企画グループを中心に産学官連携を推進。
大学発ベンチャーの支援にも取り組み、地域への貢献を具現化していきます。

創造開発研究センター 社会連携創造部門

三重大学創造開発研究センターは「産学官の連携を深め、三重大学の知的財産活用や独創的な研究開発の推進等を図ることにより、三重大学の研究、教育の進展、わが国および地域社会の産業、文化、福祉の向上に資すること」を目的に活動を行っています。同センターにおける外部機関との連携・協力の推進を担当する部門として社会連携創造部門が設置されており、三重大学における産学官連携を企画・実践するとともに三重大学発ベンチャー企業の育成および支援を行っています。

平成19年度には、産学官連携を企画・推進する機能を強化するために、部門内に企画グループを新設しました。これは、平成18年12月の教育基本法、平成19年6月の学校教育法の改正に伴い「研究成果の社会還元が教育・研究に加えた大学の第3の使命」であることが明確に認知されるようになったことを受け、三重大学としてこの第3の使命を如何に具現化していくのかを考える組織として設置したのになります。国立大学の法人化に伴い特性や自主性に基づく運営が国立大学にも求められてきています。また、政府から交付される運営費交付金が漸減するため資金力の弱い地方国立大学が置かれている状況は年々厳しくなっています。しかしながら文部科学省管轄での歴史が長かった国立大学には大学の将来展望を描く企業で例えば「経営企画部」のような組織が存在しなかったのも事実です。このような状況を打破し、三重大学としての将来展開と社会連携を通じた社会的責任を果たすための具体策を考え執行部に提言する「所謂、大学の経営企画部」となることを目指して設置したのが社会連携創造部門企画グループになります。

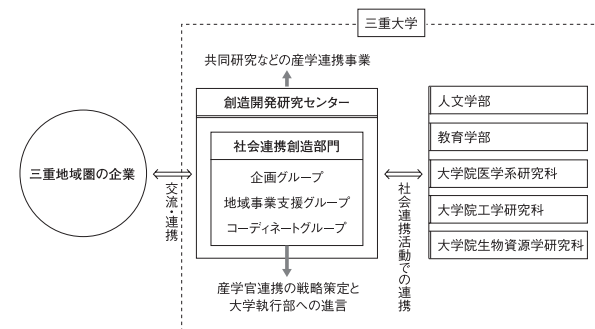
以上のような設立背景から、企画グループでは、社会連携を推進するための新たな仕組み・組織の立案や、産学官連携での競争的資金の獲得戦略を策定し、それを実現する実務を担当するなど、社会連携を通じた三重大学の地域貢献を具現化するための機能を担当しています。また、研究成果の社会還元の代表例である大学発ベンチャーに対しても、キャンパス・インキュベーターを利用した施設面での育成支援を行うだけでなく、産業展への出展支援など企業として自立するための支援も行っています。

以上のように、大学を取り巻く社会環境の変化を的確にとらえ、三重大学が社会連携を通して三重大地域圏の発展に貢献するために、社会連携創造部門は「社会との接点」として、今後も機能していきたいと考えています。

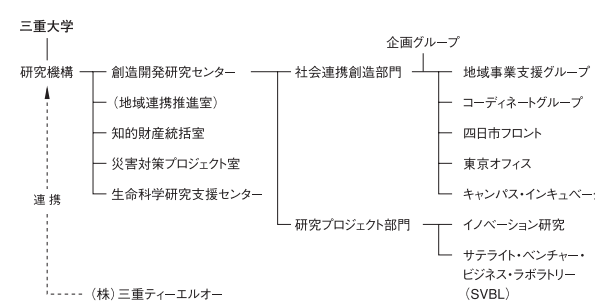


前身は平成2年に発足した地域共同研究センター。平成16年、創造開発研究センターに改組され現在に至る。

◎三重大学の社会連携体制



◎三重大学の研究支援組織



三重大学創造開発研究センター

<http://www.crc.mie-u.ac.jp/index.html>

お問い合わせ先
TEL:059-231-9078 / FAX:059-231-9047
liaison@crc.mie-u.ac.jp

T O P I C S

皆見省吾記念賞



医学部附属病院医師

尾本陽一

アトピー症皮膚炎などの「かけば余計にかゆくなる」という悪循環の仕組みを科学的に解明しました。この研究成果を高く評価され、2007年4月日本皮膚科学会から国内で最も業績を上げた若手の皮膚科学の研究者に贈られる「皆見省吾記念賞」を受賞しました。この記念賞は、三重県内で初の受賞となりました。今後、治療の開発への応用につながるものと期待されています。

Legal Medicine 優秀論文賞



大学院医学系研究科講師

井上裕匡

2007年5月第91次日本法医学会総会において「Legal Medicine優秀論文賞」を受賞しました。覚醒剤に関わる死亡事例では、血中覚醒剤濃度を指標として死因を診断していますが、致死量未満の血中濃度でも死亡する事例が多いことを論文にまとめ発表したもので、今後この論文が覚醒剤関連死の診断基準の一つなることが期待されます。

日本自然災害学会学術賞



大学院生物資源学研究科教授

葛葉泰久

2007年9月第26回日本自然災害学会総会で、「確率統計的評価による豪雨特性の分析に関する研究」により日本自然災害学会学術賞を受賞しました。これは、豪雨の確率統計的解析評価により豪雨の特性を明らかにしようとする、生物資源学研究科が重点的に行うことを指定した自然災害研究の成果の一部であり、近年発生頻度が高くなっている集中豪雨の事例に適用したもので、豪雨災害の防止・軽減に大きく寄与すると評価されたものです。

第17回日本循環薬理学会 「Young Investigator's Award」



大学院医学系研究科助教

島田康人

2007年11月第17回日本循環薬理学会において新しいヒト疾患モデル動物ゼブラフィッシュを利用した研究「新しい心不全モデルの創成と治療遺伝子ネットワーク解析」で、「Young Investigator's Award」を受賞しました。この賞は次代を担う人材育成のため若手研究者の口頭発表を積極的に奨励する目的で創設されたもので、演題申し込み時に40歳以下の候補者として登録された発表者の中から優秀発表者2名に与えられる賞です。

日本臨床化学会奨励賞



医学部附属病院臨床検査技師

安田和成

薬の効き方は個人により千差万別です。そこで薬剤代謝酵素遺伝子多型に着目した、遺伝子多型解析に基づく慢性関節リウマチ治療のためのオーダーメイド薬物療法の確立を目指しました。この研究成果が評価され、2007年11月第47回日本臨床化学会において若手研究者に贈られる「奨励賞」を受賞しました。今後、副作用の少ない個人に有効な薬物治療の実践が期待されます。

日本臨床検査医学会優秀演題賞



医学部附属病院臨床検査技師

坂本佑子

尿中に剥離したがん細胞から、Survivin遺伝子の発現量を測定する非侵襲的かつ高感度な膀胱がんの診断法を開発しました。この研究発表が、2007年11月第54回日本臨床検査医学会学術集会上において高く評価され、優秀演題賞を受賞しました。今後、簡易測定試薬の開発、また臨床での実用化が期待されています。